

平成26年度
第1回北区まちづくり協議会全体会

会 議 録

日 時：平成26年8月26日（火）午後3時開会
場 所：札幌サンプラザ「金枝の間」

1 開会

○司会（石山市民部長）

2 あいさつ

○座長（北連合町内会 宇野会長）

○阿部北区長

3 報告

平成 25 年度第 2 回全体会の実施結果について

○瀬川地域振興担当部長

平成 25 年度の第 2 回北区まちづくり協議会全体会は平成 25 年 11 月 13 日水曜日、札幌サンプラザ高砂の間において、北区まちづくり協議会構成団体の代表者等 26 名が参加して開催された。

冒頭、北海道コココーラボトリング株式会社から講演をいただいた。

その後、参加者が五つのグループに分かれて、避難所運営マニュアルを元に、住民組織が中心となって行うべきことや、あらかじめ訓練しておくべきことなどについて議論を展開した。

避難所の運営については、小グループの体制をいかに定めておくかによってスムーズにできるかどうかが決まってくる、避難所の衛生面に関しては特に女性・子供・乳児への対応が必要である。このことから、避難所運営のあり方を検討する場合はもちろん、実際の運営に当たっても女性の参加を得ていかなければならない、などといった意見があった。

避難については、町内会の中に、災害が発生した時点で避難命令を発し住民に呼びかける組織が必要と思われる、避難所マップの更新に当たっては業者任せなどにせず自分たちでまち歩きなどしながら確認し関わっていくことが非常に大事である、などといった意見があった。

避難所施設については、区域内に大きな商業施設などがある場合それを所有する事業者と町内会とで事前に協定を締結して地域独自の避難所を多く作っていくことが必要である、といった意見があった。

行政に対する要請として、避難所にどのような食料や物資が備蓄されているか見えてこない、地域避難場所にも緊急の飲食物や子供の離乳食など半日分程度の物資を備蓄してもらいたい、そうした備蓄品の配備については地域の実情を聞いてから決めてもらいたい、などといった意見があった。

災害時要援護者の関係では、災害時に援護を要する高齢者や障害者について、平時から単位町内会などで把握しておくことも必要であるが、同時に高齢者・障害者向けの施設と日頃からコミュニケーションをとって迅速に対応できるような体制を構築しておくべき、といった意見があった。

平時における訓練その他の備えについては、何よりも防災訓練を真剣に行って経験値を高めておくことが必要であり、普段から学校や企業の連携というものを大事にしコンタクトをもっと強くしていく必要がある、などといった意見があった。

4 講演

「災害に負けない地域づくり（中越大震災から学ぶ）」
○NPO法人防災サポートおぢや 理事 風間久司氏

5 閉会

○司会（石山市民部長）